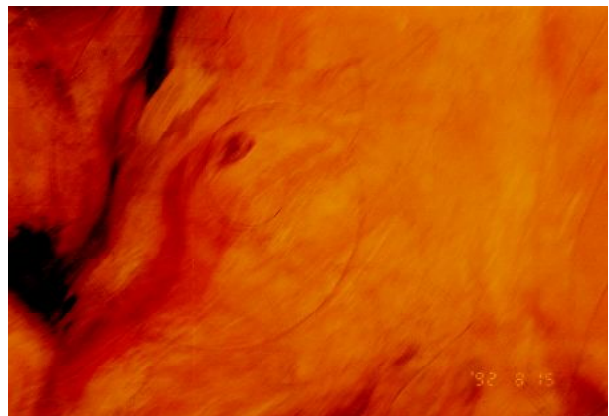




「自由の鐘」のき裂（フィラデルフィア）

自由の鐘（3代目）は、1753年にペンシルベニア州の議事堂の尖塔に掛けられた。この鐘は、1776年にアメリカの独立が宣言された際に、独立を記念するシンボルとして打ち鳴らされた。しかし、その後、いろいろな記念日ごとに鳴らされているうちに割れてしまったため、き裂が広がらないように、1846年2月に、き裂先端部にドリルで穴が開けられた（[応力集中を緩和するため](#)）。その直後の2月22日、ジョージ・ワシントンの誕生日を祝って、数時間にわたって鐘が鳴らされた際、穴の先端からまた割れができてしまった。（「ウィキペディア」の記事より）

鐘を叩くと、き裂壁が接触して音が悪くなるので、き裂壁に沿ってドリルですき間を開けたのでしょうか？ 上と下のピンは細いき裂を少し開いたままで固定するためにある？ これだけ割れると、もとの音色とはかなり異なるでしょう。このドリル溝やピンから、大切な記念の鐘と音色を守るための人々の工夫の跡がうかがい知れます。割れの修理跡は、見る人に自由の鐘の歴史的意味を印象づける効果をもっている、といえなくもありません。

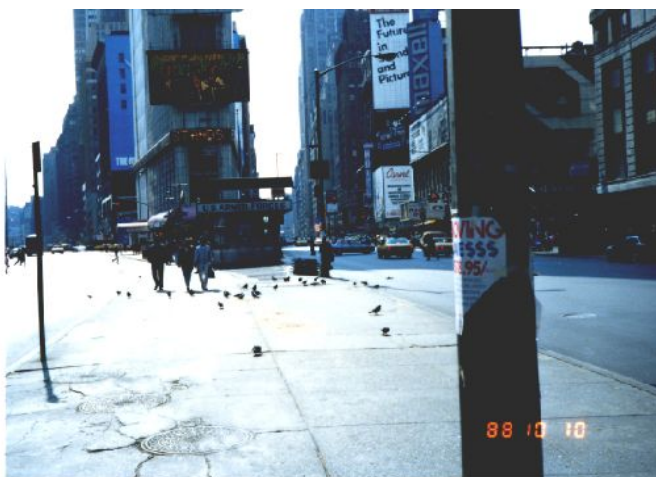


レスラーを描いた絵画（ボストン美術館，題名，作者は記録していません）
絵画では、らせん状のき裂は、大変珍しい（残念ながら、ピンボケです）。



恐竜の化石の割れ（スミソニアン博物館：ワシントン）

これは、ワシントンのスミソニアン博物館で見かけた恐竜の化石で、背中についている板の表面に多くの割れがあったので写真を撮りました（かつては息子が見ていて、今は孫が見ている恐竜図鑑によると、1.5億年前のジュラ紀に棲息したステゴザウルスのようです）。上部の平坦に削ったような（調査のためか？）部分には割れはありませんので、割れは表面のみで起こっているようです。石の表面に割れがあっても不思議はありませんが、筆者には、骨の成分がどのような過程を経て化石になるかが分かりませんので、割れの原因も説明できません。骨の表面の成分が風化により溶出して表面が収縮した、骨が石になるという気の遠くなるような時間の化学的変化の過程で何らかの力が発生して弱い表面が割れた、あるいは地中に埋もれていた化石が地殻変動により地表に現れる過程で力を受けて表面が割れた、などと想像することはできますが、本当のことは分かりません。



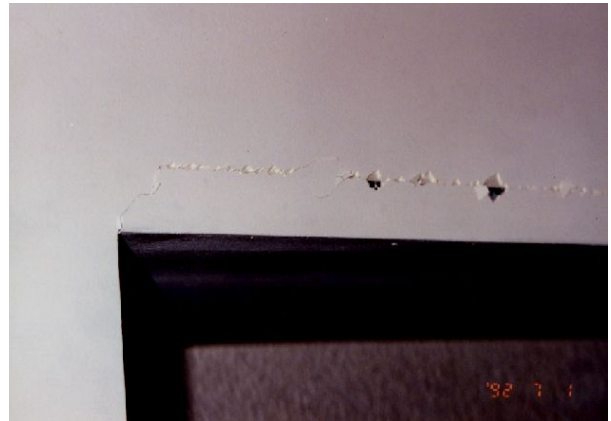
ニューヨーク・タイムズスクエアのマンホールのまわりの歩道の放射状割れ



夜のタイムズスクエア（ウィキペディアより）



ゴールデンゲートブリッジの橋脚土台の割れ（サンフランシスコ）



前日の地震で、壁の塗装が剥落したホテルの部屋（サンディエゴ）

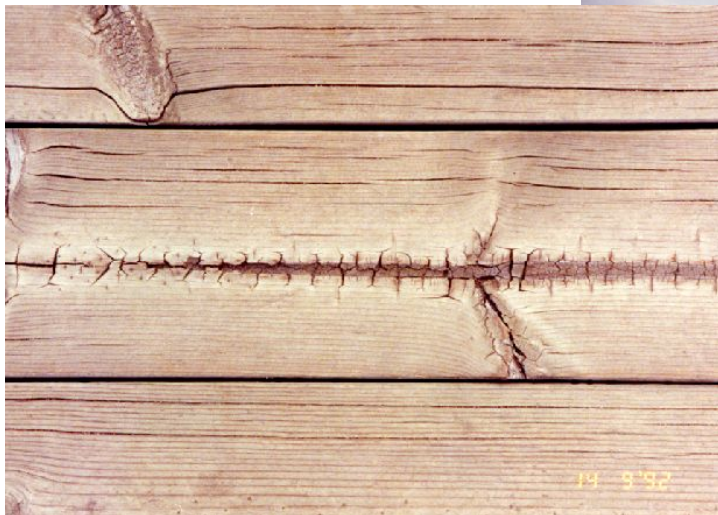


ミシシッピー川源流の岸壁（カンブリア紀？）の割れ（ミネソタ）



サマーフェスティバルの出店にあった陶器の割れ（ミネアポリス）

繰返し分割型の割れ



スネリング砦の展望台の床のき裂（ミネアポリス）」

中心部の割れはなぜできるのか？ 中心部の材質が周辺部と異なり，乾燥により長手方向に収縮した？



オールドタウン（モントリオール）にあった錘？と道路の割れ



陶器店で見た食器の割れ（ビクトリア）



Made in occupied Japan と記された人形と台座の割れ（ビクトリア）

戦後しばらく、日本はアメリカ軍の占領下にあった。私は昭和 17 年（1942 年）生まれで、子供のころは進駐軍の兵隊をよく見かけた。小学校のある日の朝礼で、校長先生が何か話されたあと、皆で、回れ右をして全員で礼をした。礼をしたが、後ろには講堂の壁があるだけでほかに何も無い。しかし、先生たちの顔つきは真剣で、ただ事ではないと感じたので、この日のことが記憶に残っている。後から考えると、これが 1952 年のサンフランシスコ平和条約の発効であり、礼をしたのは皇居への遥拝であった。アメリカ軍の日本占領は終結し、アメリカ兵はいつの間にか、いなくなった。進駐軍のいた建物は、その後しばらくして保安隊・自衛隊の支部になり、今は観光物産館に建て変わっている。

ところで、終戦の 1945 年から占領の終わる 1952 年までの 7 年間、日本が食べていくために輸出したものは何であったろうか。日本中の工場は空襲で破壊されていたから、まともな工業製品は製造できるはずはないし、もともと戦前の日本の工業製品のレベルは高いものではない。戦前から、おもちゃや陶磁器は、輸出品の重要な位置を占めていたから、戦後もこれらの輸出に力を入れたことは間違いない。ただし、現在では高品質の代名詞である Made in Japan ではなく、占領下の日本で作られた輸出品には、Made in occupied Japan と記されており（義務付けられていた？）、それは、一部を除き、戦前と同様、「安かろう、悪かろう」を意味したであろう。

ある種の蒐集家は、ことさら希少価値を求めて、Made in occupied Japan と書かれた品物を探すということを聞いたことがあった。私は、アメリカやカナダで、Collectibles（高級な Antique ではないが、日本でいうガラクタと安い骨董品の両方を含むものであるか）を売る店にたびたび出かけたが、それらを探してまで買う気はしなかった。ところが、ビクトリアの骨董屋で、何の気なしに、Made in occupied Japan はあるか、と聞くと、あるというので、思わず買ってしまったのが上記の人形である。もちろん、モデルとなる本物があり、日本の小さなおも

ちゃメーカーが、それを手本にしてアメリカ向けのイミテーションを作ったと思われるが(そう思いたくない気持ちもあるが)、つくりがいかにも粗末で、台座には、それと分かる「き裂」がある。このき裂は、おそらく素焼きの段階でできたもので、不良品として廃棄するのではなく、製作者は、その上から絵付けをして釉をかければ、き裂が目立たなくなることを期待したのかも知れない。この「き裂」は、ある意味で、当時の日本の輸出事情、製造会社の品質意識の一端を示していると思われる。

ところで、その骨董店の女主人は、自分の店が紹介してある日本の雑誌を見せてくれ、丁度とてもよい人形が手に入ったところなので見てくれ、と言って私を店の奥の別室に連れていった。そこには、ヨーロッパのどこかで作られた高級そうで大きな磁器製の人形が置いてあった。もちろん、女主人は、安い Made in occupied Japan の人形を探すような私にそれを売るのはなく、ただ見て欲しかっただけであるが。

この人形を買ってから、私は、Made in occupied Japan に無関心ではなくなった。ある年、ミネソタ大学の Prof. Fredrickson がミシシッピ川の上流に野草の花を見に連れていってくるといので、途中で Red Wing という町に寄ってもらった。そこには、今では廃業している古い陶器製造工場があり、その内部には多数の Collectibles Shop が並んでいた。私がある店で、Made in occupied Japan と記してある小さな陶器製の置物を 2 つ買うと、彼は半ば呆れたように言った。「このようなものは、アメリカでも本物が買えない貧乏な親が子供に買ってやったものだ。お前はなぜ、こんな粗悪品を探すのか」。私は、これは「私の過ごした子供時代の日本に対するノスタルジアの 1 つだ」と言った。私よりも年上で、戦争を知っているとはいえ、彼が私の答えに納得したかどうかは分からなかったが、彼にとって、このようなものを好んで買う私が奇妙に思えたのは当たり前である。ただ、粗悪品といわれると、私の気持ちは複雑であったが、残念ながら私の下手な英語では、それをすぐに表現することができなかった。当時の日本の状況からすると、いかにアメリカの金持ちからは粗悪品と蔑まれようと、売れる見込みがあれば輸出したであろう。アメリカ製でないことは、裏に、Made in occupied Japan、と書いてあることから誰の目にもはっきりしている。もし、アメリカ製の人形をまねたのであれば、デザインの盗用に当たるが、このような粗悪品が金持ち相手の本物を製造する会社を脅かすことはなかったであろう。それで当時の日本の会社がお金を稼ぎ、従業員が生活の糧を得ることができたのも事実であるし、不十分ながら買って満足する、お金のない親と子がいたのも事実である。

ところで、私が小学校のころ、母は内職でアメリカ向けの白い手袋を作り、家計を支えていた。これは、手の形に裁断された一組の布の縁をブランケット・ステッチし、手の甲の部分に数本の筋をつくり、それらに小さな人造(模造)真珠を並べて縫い付けたものである。ねずみが走り回る埃だらけの我が家で、汚れないように細心の注意を払って母が作っていた白い手袋が、遠いアメリカのどのような婦人に使われるのであろうか、手袋の指の太さがやけに細いが、手にきちんとはまるのであろうか、などと、想像していたことがある。私はのちにアメリカの Collectibles Shop でいろいろな古いものを見た。ひょっとして、と思ったが、やはり 40 年以上も前に母が作ったような手袋を探し出すことはできなかった。もともと、このようなものを売っている店はなかったであろうが、もしあったとしても、当時は目に沁みるように白かった手袋も、私の記憶と同様、黄色に変色してぼろぼろになってしまっていたであろう。

未完成です

ホームページに戻る

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/nakasa/>